

学校の教育目標の設定と「社会に開かれた教育課程」 ～ 岐阜県公立小学校における事例を通して ～

脇田正

(東海学院大学人間関係学部子ども発達学科)

要 約

平成 29 年改訂された学習指導要領では、これからの教育課程の理念の一つに「社会に開かれた教育課程」が掲げられた。前年の中央教育審議会答申においても「これからの時代を生きていくために必要な力とは何かを学校と社会が共有し、共に育んでいくこと」が提言された。これにより、学校教育は保護者・地域社会とともに、教育理念を共有し、その理念を具現化する明確な教育課程を編成し、互いに連携・協力しながらこの理念を実現していくことが求められることとなった。

学校において、教育理念はその教育方針や学校経営方針に現れており、根幹には学校の教育目標が位置付けられている。そして、学校の教育目標の具現に向け、教育課程は編成され、教育活動は見直される。本実践では、中央教育審議会の答申や学習指導要領改訂の動向を踏まえつつ、学校の教育目標の改訂とそれを踏まえた教育課程の編成についての実践を述べる。

特に、学校・家庭・地域社会において共有される学校像、児童像を明確化した学校の教育目標は、「社会に開かれた教育課程」を求めていく上で必要不可欠なものであり、それを改訂することは、児童生徒の実態、学校を取り巻く環境や社会の変化、保護者や地域社会の求める教育等を包含する自校の教育理念を確立する上で有効な方策と考えた。

本稿は、岐阜県公立小学校を例に、学校の教育目標の改訂とそれを踏まえた教育課程の編成の具体を明らかにし、学習指導要領全面実施に備えた実践をまとめたものである。

キーワード 新学習指導要領 社会に開かれた教育課程 学校の教育目標 教育課程の編成

1 問題の所在

(1) 学校の教育目標の今日的意義と課題

学校の教育目標（「学校教育目標」と記述する例もあるが、本稿では学習指導要領総則編の記述に従った）は、児童生徒の実態や学校の諸環境、学校教育の課題等を適切にとらえて設定される。そして、そこには学校をはじめ、保護者や地域社会の願い、創設時の理念、教育が社会に果たす役割等が組み込まれ、受け継がれていくものである。学校の全教育活動は、この目標が示す方向に向かって教職員の共通理解のもと進められるべきものといえる。また、学校の教育目標は「ある一定の普遍的価値をもつ言葉が掲げられることが多い。（中略）児童・生徒や校長・教職員が入れ替わっても変更しないことが多い。」そのことによって「伝統や校風がそれによって形成され、地域社会に浸透

する」（岡本・三山 2012）という面も見逃してはならない。

学校の教育目標は、校長の学校経営上からも重要である。バーナードは組織の成立要件の一つに「共通目的」をあげている。（二宮 2015）学校という組織体が適切に機能し、児童生徒によりよい教育を提供するには、校長をはじめとした学校の全教職員が明確な目標を共有し、教育実践を積み重ねていくことが重要である。それによって学校の教育目標が示す学校像、子ども像が具現可能となる。また、保護者や地域住民に学校の教育目標及び教育活動が適切に説明・情報提供されることで学校への信頼が拡充し、学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育の充実に向かう組織的態勢が整えられることになる。こうした態勢が整えられた学校は、教育目標の具現に邁進することができる。

さて、2017年学習指導要領改訂（以下「要領」とする）において、学校の教育目標とそれを踏まえて各学校で編成される教育課程について新たな理念が示された。2016年中央教育審議会は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）」（以下「答申」とする）をとりまとめた。「答申」では、社会と学校教育と関係についての現状を「今は正に、社会からの学校教育への期待と学校教育が長年目指してきたものが一致し、これからの時代を生きていくために必要な力とは何かを学校と社会が共有し、共に育んでいくことができる好機にある。」と捉えている。そして、これからの教育課程の理念として「社会に開かれた教育課程」を提起した。「社会に開かれた教育課程」の実現には、

- ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと
 - ②これからの社会を創り出していく子どもたちが社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り開いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと
 - ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずにその目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること
- 以上が重要であると指摘している。この「答申」の趣旨は「要領」の前文に明確に位置付けられ、今次改訂の大きな柱となっている。これを踏まえて、教育課程編成の手順例（総則 2017）に「学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定める」とし、学校の教育目標の実現を目指して教育課程を編成するよう確認がされている。なお、「答申」が示す「社会」は、当然学校の校区に限ることではないが、学校が社会を創り出していく子どもたちの資質・能力を育む役割を考えれば、当該学校に課せられた課題であると考えられる。

以上から、学校の教育目標の今日的意義は従来にも増して高まっていると考える。

（2）学校現場における学校の教育目標と課題

学校の教育目標については、次のように課題が指摘されている。三山は、学校の教育目標は「理念的で抽象的な表現になりやすい」傾向を指摘し（三山 2012）、佐藤は、学校の教育目標が、「多くの場合、教育の理想や理念を示すものとして考えられ、『単なるお題目に終わってしまっ、実践の場で生かされていない』という指摘がされてきた」とし、「学校教育目標が単なる形式的スローガンと化す」（佐藤 2006）としている。さらに、抽象的な表現で代わり映えしない学校の教育目標について「お飾りになってしまい、いつの間にか何年も同じ表現で居座り続け、はてはそれがどんな理由で設置されたのか、そのことすらわからなくなってしまう」ということからの脱却が必要である」という指摘は重要である。（佐藤光・浦野 2015）

次の表1は、岐阜県内のA市における全小学校の学校の教育目標を平成19年度と令和元年度で比較したものである。過去13年間で教育目標改訂に着手した学校は全22校中4校に過ぎないことがわかる。変更しないことを問題としないが、平成19年度以降、「要領」の2回にわたる改訂をはじめ、教育基本法・学校教育法の改正、教育委員会制度の見直し、教育振興基本計画の策定、学校運営協議会制度の導入など、教育を取り巻く環境の急激な変化があったが、教育目標へのアプローチは乏しかったことは指摘したい。

また、筆者が赴任した岐阜県B市のC小学校では、平成元年以降約30年にわたり同じ学校の教育目標が脈々と受け継がれていたが、その成立の過程や改訂の動向は記録に残っていない。同B市内の小学校を調べると、本校教育目標と同じ文言が使われている学校が過半数あり、同一時期に教育目標が制定され改訂されることなく現在を迎えていると考えられる。

このように、学校現場においては、学校内外を含む様々な教育活動の指標となるべき学校の教育目標が、社会や教育全体の大きな変化の中で見直しされることなく続いている実態がある。

【表 1】学校の教育目標の平成 19 年度と令和元年度の改訂状況（岐阜県 A 市）

岐阜県小中校長会教育問題審議会答申(2008)と各学校の HP(2019)から筆者作成

学校	平成 19 年度教育目標	令和元年度	学校	平成 19 年度教育目標	令和元年度
1	やりぬく	進んでやり抜く	12	生き生きと行動する子	変更なし
2	知 愛 夢	変更なし	13	自分を見つめ、思いやり の心で活動する子	変更なし
3	豊かな心でやりぬく子	変更なし	14	ふるさとに誇りをもち 未来を切りひらく子	変更なし
4	たくましく かしこく おも いやりのある子	変更なし	15	やさしく かしこく た くましく	変更なし
5	はてなしのぞみ	変更なし	16	思いやる心をもち、仲間 と共にやりぬく子	夢に向かい 共に創 る子
6	力いっぱいがんばる子	変更なし	17	ふるさとを愛し、夢をも とめる子	変更なし
7	心豊かでたくましい子	変更なし	18	進んでやりぬく子	学び合いつながり合 い未来を開く
8	夢に向かって生きる	変更なし	19	進んでやりぬく子	変更なし
9	豊かな心をもったたくましい 子	変更なし	20	夢をもち 仲間と共にた くましく生きる子	夢にむかってたくま しく生きる子
10	仲間を大切にし、進んでやり ぬく子	変更なし	21	自立 創造 思いやり	変更なし
11	ゆめ	変更なし	22	進んでやりぬく子	変更なし

「答申」は、各学校が育成を目指す資質・能力の具体化に関わって、「学習指導要領等が、教育の根幹と時代の変化という『不易と流行』を踏まえて改善が図られるように、学校教育目標等についても、同様の視点から、学校や地域が作り上げてきた文化を受け継ぎつつ、子供たちや地域の変化を受け止めた不断の見直しや具体化が求められる」として、改訂の柱の一つである「カリキュラム・マネジメント」の点からもその重要性和見直し等の必要性が強調されている。仙台市では、教育委員会が市内校長に学校のグランドデザインの更新という形で教育目標を考え直すことを指導しているという報告もある。(初等教育資料 NO. 961) 学校の教育目標については、理想とする育成すべき児童生徒像を明確にし、日々の教育活動で具現するという考えのもと、学校や社会の変化に応じて適切に検討を加え続けることが必要である。

筆者は、このような学校の教育目標の今日的意義と、学校現場での教育目標に対する現状との開きを改善し、「社会に開かれた教育課程」という新たな理念の方向性を十分反映した教育課程を本校で編成し、教育活動を改善することを意図して、平成 28 年度から 29 年度にかけて学校の教育目標の改訂と教育課程の改善に実践的に取り組むこととした。

2 研究の視点

学校経営におけるリーダーシップを発揮する立脚点としての学校教育目標(天笠 2019)を、「要領」の理念と本校の実態や教育諸課題を踏まえて改訂すること、及びそれを具現するため、新たな教育課程の編成や教育活動を創造することを実践の内容とし、次の 2 点を研究の視点として取り組んだ。

学校の教育目標の設定と「社会に開かれた教育課程」

(1)学校の教育目標を、学校及び、保護者や地域住民の考えや願いを包含したものに改訂することで、目指す学校像や児童に身に付けさせたい資質・能力を学校と家庭・地域が共有し、連携・協働を進めることができる。

(2)学校の教育目標と学校経営方針に基づき教育課程を編成し、教育活動の改善を組織的に推進したり、共有された目標のもと家庭・地域との連携を高めたりすることにより、「社会に開かれた教育課程」という理念を具現することができる。

3 研究の具体的実践

(1) 学校の教育目標の改訂

① 学校の概要と目標改訂の必要性

本稿で扱うC小は、昭和47年にD小から分離し開校した学校で、開校当初は児童数1,000名程のB市中心部に位置する大規模校であった。当時から、地域住民の協力で校内の教育環境が整備されたり、歴代PTA役員等による学校支援組織が設置されたりするなど、学校と家庭や地域が連携・協力する教育環境が醸成されていた。教育活動では、伝統的に重視している合唱指導、道徳教育の一環としての挨拶指導や児童の「よさ見つけ」を継続的に進めると共に、県教育委員会指定の教育課程実験学校、市教育委員会指定の生活科や環境教育の実践を経て、近年は算数科を中心とした授業改善の取り組んでおり、教育課題の改善に向けて着実な取り組みを進めている状況であった。一方、学校の教育目標「めあてに向かって 力いっぱいやりぬく子」は平成元年頃に設定され、その後改訂なく設置し続けられた。教育活動に関する校内会議や協議などは学校経営方針が指針となっていたが、学校の教育目標を日常の教育活動で意識化して取り組む点では改善の余地があった。学校の教育目標の改訂を進めることは、本校の教育活動改善の方向を明確にすると共に、教職員が共通目標のもと組織的な教育活動を進化させることにつながると考えた。

保護者や地域との連携については、今回の教育目標の改訂に保護者や地域住民の参画を図ることで、学校と家庭・地域が目標や育てたい子ども像の共有を図ることができ、

互いに「当事者」として一層の連携と協働が進むことを期待した。

② 学校の教育目標改訂の視点と配慮点

本校の歴史的経緯と現状を鑑み、また「要領」改訂という教育の大きな変革の時期を逃すことなく改革に着手すべく教育目標の見直しに取り組んだ。

実際に教育目標を改訂することについて学校現場では、それに着手せずとも毎年度学校経営方針の変更で対応することや、目標にキーワードを付加するなど部分修正を行うことが多い。こうした構えで教育目標をとらえることは、学校の教育目標が「学校の自主性が発揮されず、他校と横並びで凡庸なもの」や「教師の論理だけでつくられたもの」(佐藤 2006)となることも危惧され、その意義に沿ったものとはならない。そこで、本校では教育目標の全面改訂を視野に作業を進めることとし、次の3点を基本方針として取り組むこととした。

- (1) 教育目標改訂に当たっては、保護者、地域の実態や教育への願い及び、教職員の考えを直接把握し、十分考慮すること
- (2) 学校の歴史的な経緯や将来への展望などを踏まえ、社会の変化を考慮しつつ、分析・検討し、設定した教育目標について十分な説明を行うこと
- (3) 目標具現のための教育課程や具体的な教育内容を保護者や地域に示し、理解と協力を求めること
(初等教育資料 No. 978)

さらに、目標の構成と配慮すべき点については、次の点を教職員と共通理解し策定することとした。

【学校の教育目標の構成】

- ア 学校の教育目標
- イ 目指す子ども像
- ウ 育てたい資質や能力

【配慮すべき点】

- 国の関係法令及び学習指導要領の趣旨に則ったものであり、県や市の教育ビジョンや方針を踏まえること
- 新設する教育目標にふさわしく新鮮さが感じられ、児童・保護者・地域にも理解しやすいものであること
- 中・長期的なビジョンに立った目標とし、単年度においては学校経営上のグランドデザインを別途設けること
- 学校教育を中心としながらも、家庭や地域の教育力への期待も含まれた意図が感じられるものであること
- 中央教育審議会で審議が進む「育成すべき資質・能力」にも関心を払いつつ、「知・徳・体」のバランスのとれた児童を育てることを謳ったものであること

- (ア) 保護者・教職員・学校評議員へのアンケートの実施方法と内容
- (イ) 学校の教育目標の改訂
- (ウ) 学校の教育目標の公表

(ア) 保護者・教職員・学校評議員へのアンケートの実施方法と内容

学校の教育目標改訂に当たっては、前述の視点に沿い、保護者、地域の本校教育への願い及び、教職員の考えを広く求めるべく無記名によるアンケートを3種類行った。「保護者アンケート」「(地域住民の代表として)学校評議員アンケート」「本校教職員へのアンケート」である。ここでは、「保護者アンケート」と「学校評議員アンケート」について述べる。

保護者及び学校評議員へは次のとおりアンケートを実施した。

③ 学校の教育目標の改訂の手順

改訂は表2に示す手順で行ったが、本稿では特に次の(ア)～(ウ)の点について、その実践を述べる。

【アンケート対象】

- ・本校在籍児童の保護者(長子)
- ・本校学校評議員(7名)

表2 【学校教育目標改訂の流れ】

年月	教育目標改訂への動き
平成28年7月	教職員への説明 ・学習指導要領改訂に係る動向や本校の現状を説明する中で学校の教育目標改訂の意向を提案
同7月	保護者へのアンケート実施 ・1学期に行う「学校評価アンケート」に加えて記述式で実施
8月	本校全教職員へのアンケート実施
10月	学校評議員へのアンケート実施 ・学校評議員の会における協議及び学校関係者評価の一環として実施
～12月	アンケート集計・原案作成 ・管理職、教務主任、生徒指導主事による協議
12月	学校の運営委員会で原案検討
平成29年1月	職員会議にて検討、採択
2月、3月	PTA役員会にて目標案提案・同意 ・当該年度及び新年度役員への説明と提案
2月	学校評議員会にて目標案提案・同意
平成29年 3月、4月	職員会議において、新教育目標具現のための教育活動の改善について説明 ・新年度の学校経営方針(グランドデザイン)の表明も併せて実施
平成29年4月	新年度始業式にて全校児童へ説明 改善された教育活動に向けての実践
4月	PTA総会にて保護者へ説明(保護者アンケート結果も含めて)
5月以降	地域の各種団体に諸会合の場を通じて説明

学校の教育目標の設定と「社会に開かれた教育課程」

【実施時期】

保護者 2016年7月

学校評議員 2016年10月

【方法】

無記名・記述式アンケート

【アンケートの内容】

・趣旨説明

【趣旨説明文】

【保護者向け】

本校の教育目標「めあてに向かって力いっぱいやり抜く子」も設定以来 25 年以上が経ちました。本校では、今後考えられる社会の大きな変化の中を生き抜く子どもたちにふさわしい目標をつくる必要があると考えております。これからの C 小の学校教育について検討するため、保護者のお立場からのご意見をお聞きたいと思っておりますのでご協力願います。

【学校評議員向け】

現在、国の中央教育審議会での新しい学習指導要領の改訂についての議論が進んでおります。現在社会は誰も経験したことがないスピードと内容で変化しています。また、そのような社会だからこそ学校も、社会や地域と密接な関係であるべきだと中教審は言っています。本校では、学校の教育目標を、現在の児童の姿を踏まえ、変化の激しい時代を生き抜くために求められる資質や能力に応じたものに改訂し、来たる学習指導要領に備えたいと思っています。こうした趣旨より、学校評議員の皆様からも、本校の教育やこれからの学校教育についてご提言をいただきながら検討を進めてまいりたいと思っておりますのでご協力願います。

・アンケート項目

アンケート項目は、「どんな力を付けて欲しいか」と「どんな子に育てて欲しいか」の2つの観点を設けた。

中央教育審議会の審議経過や方向性を見据えて

ア) 「どんな力を付けて欲しいか」という質問項目を設け、育成すべき資質・能力に関する観点を設けた。また、学校の教育に対して、家庭・地域で教育に携わ

る者として願う児童生徒像を明らかにすることを願い、イ) 「どんな子どもに育ててほしいか」を観点とした。

具体的な質問項目は次の3点である。

【質問】

- ア) 子どもたちは、私たちが経験したことのない社会を生きていくと言われていました。C 小の子どもたちも例外ではありません。学校で子どもたちに「どんな力を付けて欲しい」と願ってみえますか。
- イ) C 小の子どもたちの9年間や、これからの将来を見据えた時、小学校では「どんな子どもに育てて欲しい」と考えられますか。
- ウ) (学校評議員のみ) 長年地域で子どもたちや本校を見守っていただいていたことや願ってみたいことをお教えてください。

【回収率】

・保護者 81% ・学校評議員 100%

アンケートは、高い回収率となった。また、保護者や地域の意見には、学校や児童の課題に直接触れる内容から、将来の学校像・子どもの成長の先を見据えたものまで幅広く記述され、本校・本校児童への期待を感じさせるものが多数みられた。

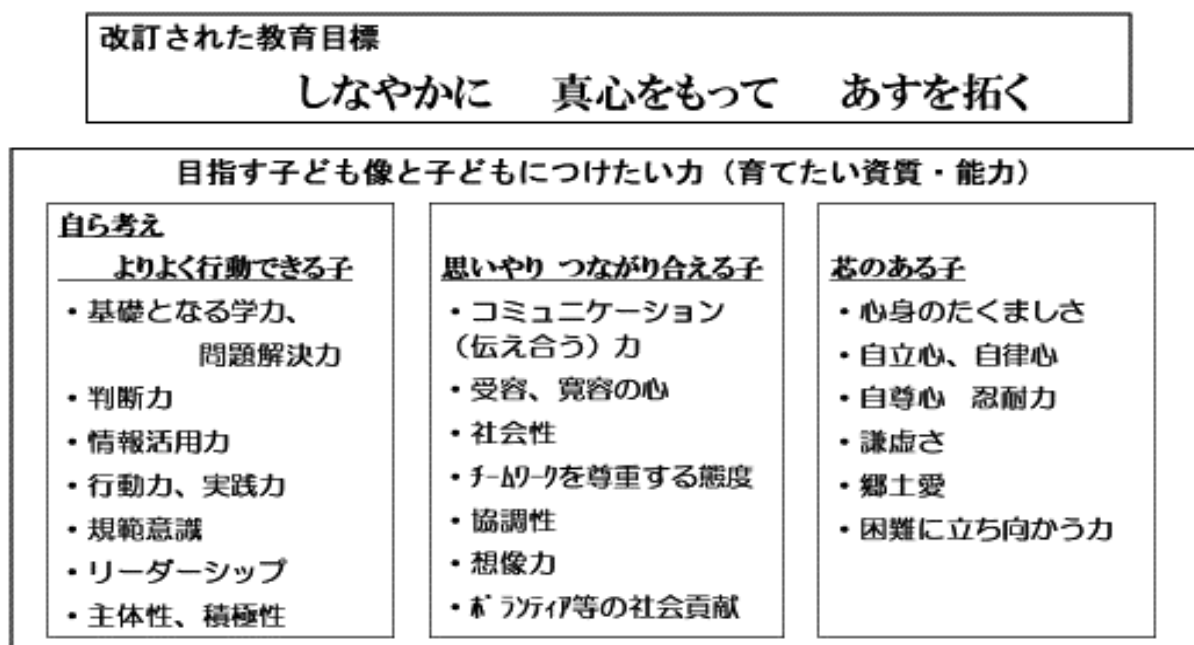
こうした意見の趣旨を踏まえながらキーワードで集約しまとめたのが次頁の表3である。キーワードを分類してみると保護者、教職員、学校評議員の求める児童像や資質・能力は、表現の違いこそあれ大きく「主体的な問題解決力」「相互理解・思いやりなどの豊かな心」「心身のたくましさや柔軟性」「社会性やコミュニケーション能力」「今後の社会を見据えたスキル」に大別されることが分かった。

【表3】 教育目標に関するアンケートの結果 (C校の教育目標アンケートより筆者が集計)

アンケート「どんな子に育てほしいか」(意見をキーワード化し、多数を占めたものを表記)		
保護者	教職員	学校評議委員
<ul style="list-style-type: none"> ・人に優しく、思いやりのある ・人の気持ちに寄り添い助け合える ・自分のよさと他者の個性を尊重できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を大切に、仲間を大切にできる ・互いを理解し合う力と心をもった ・助け合い、思いやりの心がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の広い人 ・周りに支えていただいていることに感謝する心 ・人と豊かに触れ合える
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え行動できる ・自立、自律した ・夢や目標を持ちチャレンジできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、判断し、解決していく ・自分の考えをもち、表現・伝えられる ・仲間と共によりよい考えを創造できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活機能のシステムの中で適応する ・常識を身につけた ・自分の力で生き抜く
<ul style="list-style-type: none"> ・最後まであきらめずやりぬく ・自己肯定感を持ち、自分を信じて前に進める ・精神的なたくましさがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心や自ら挑戦する気持ちを持った ・挫折に負けず我慢強く最後までやりきる ・自分を肯定し、自分を仲間と共に磨ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で生き抜く心身共にたくましい ・自分のよさを信じ、発揮できる
<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で力を発揮できる ・豊かな人間関係を築ける ・人のために力を発揮し信頼される 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性を身につけた ・基礎的な学力等を身につけ生かせる ・自然や命に対する豊かな感性 	<ul style="list-style-type: none"> ・人や自然を愛する心 ・日本のよさや伝統を身につけた ・物事の本質を学ぶ心

アンケート文末に記される「～の子」はすべて省略した。

アンケート「どんな力を身に付けてほしいか」(意見をキーワード化し、多数を占めたものを表記)		
保護者	教職員	学校評議委員
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、判断し、行動できる力 ・自主性、積極性、自立心 ・自ら問題解決できる力 ・広い視野をもち、様々な場面での適応力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、選択し、主体的に行動する力 ・自己決定するたくましさ ・目標設定し、自分の力で問題解決を図る力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力、自分たちの力で考え、作り出し、行動する力 ・問題に対して自分で考えていく力
<ul style="list-style-type: none"> ・たくましく生き抜いていく力 ・逆境に負けず乗り越えていく力や忍耐力 ・強くなやかな折れない心 ・自己肯定感や社会への適応力 	<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめず我慢しながら続ける力 ・自分の誇れるものを持ち自信をもって行動できる力 ・困難な中にも解決策を見いだそうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくましく生き抜く力 ・やればできるという自信 ・夢に向かって努力できる力
<ul style="list-style-type: none"> ・人を思いやる心 ・友達と協力する力や協調性 ・自分も他者も大切にできる心 ・人との違いを受容し、尊重する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って考え、行動する力 ・互いを認め合い助け合っていく力 ・思いやりの心や協調性 	<ul style="list-style-type: none"> ・差別することなく誰にも平等に接する ・自分を好きになり、自他のよさを見つけ褒めることができる
<ul style="list-style-type: none"> ・良識的な社会性 ・コミュニケーション能力 ・自他を尊重し、最良を見いだす力 ・自己表現力と謙虚さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力 ・折り合いをつける力 ・価値あるものを考え、追求する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのコミュニケーション ・挨拶・言葉遣い
<ul style="list-style-type: none"> ・将来を見据えた基礎学力とスキル ・危機回避能力 ・グローバル社会への対応力 ・健康な身体と自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> ・個性の尊重 ・基礎学力 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い視野をもち社会に通用する力 ・将来に対する大きな夢を抱ける力



【図1】 改訂後の学校の教育目標

(イ) 学校の教育目標の改訂

アンケート結果及び整理を踏まえて、教職員で具体的な目標づくりを行った。その際、先の目標の構成で述べたように、「学校の教育目標」を設定すると同時に、より具体的で学校の教育活動における指標となる「目指す子ども像」を位置付けることとした。また、目指す子ども像については「育成すべき資質・能力」を明確にし、目指す子ども像に向かうことでどのような資質・能力が身に付くのか。或いは、どのような資質・能力を身に付ければ目指す子どもが具現できるのかを意識した目標の構成となるよう配慮した。

なお、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（2016）を教職員研修で取り上げ、今回の学校の教育目標の改訂が、「要領」改訂を見通した教育課題改善への本校の歩みの一環であること、国の教育施策の方法性を踏まえつつ、議論を進めるよう意識した。最終的には、図1のように決定した。

学校の教育目標の文言については、保護者や地域住民へ十分な説明をすることで、本校の教育に関する理念や今後の教育活動に対する方向性を共有することができると考え、教育目標の文言に込めた願いなどを説明する文書を作成した。

<学校教育目標に関する説明文>

【改訂の経緯略】

<言葉に込めた願いについて>

小学校の6年間は、学習・生活ともに人間形成の土台を確かに築く時期です。この時期には、学校と家庭や地域が共に同じ願いや目標に向かって協力・連携することが子どもたちの成長に望ましい影響を与えたいと考えます。教育目標の言葉には次の願いが込められています。

【あすを拓く】

- ・子どもたちが置かれている今の社会は、変化が激しく、5年後、10年後を予測することが難しい時代。現状維持ではなく【あす】を見据えて教育を考えることが必要です。
- ・このような社会を生き抜く子どもたちには、受け身ではなく、自らの力で考え、判断し、行動することで、自分の・自分たちの夢をたくましく実現したり、未来を創り上げたりしていく力を育てていくことが不可欠です。この力を【拓く】で表現しました。

【しなやかに】

- ・学校生活だけでなく、子どもたちが生きていくこれからの人生は、順調な時ばかりではありません。時に失敗し、時に思うように人生が進まなくとも、折れることなく、多様な環境を柔軟に受け入れ、夢や理想の実現に粘り強く、しかも自分らしく生き抜いていくことが必要です。逆風が吹いても折れず夢に向かって力強く生きていく力を【しなやかに】と表現しました。

【真心をもって】

- ・たくましく生きることは、自己中心的な言動をとることなく、他者への温かな心づかいや思いやりの心を尊ぶことで輝きが増します。

・これからの社会は、地域と地域の境、国と国との境が低くなり、様々な地域・国の人との交流が盛んになります。様々な関わりの中で生きていくときに、他者と協働し、自分の心に嘘偽りなく誠実に生きていこうとする心を【真心】と表現しました。

（ウ）学校の教育目標の公表

改訂した学校の教育目標は、学校に関わるすべての人に適切に公表・周知することが重要であり、それは「開かれた教育課程」の具現にも大きな意味をもつ。本校では、次のように公表を行った。

・全校集会での児童への公表

教育目標は、学校教育の柱である。よって、各学年の児童がその意味を理解し、目指すべき姿を共有することが重要である。そこで、改訂年度の始業式等において学校の教育目標を全校児童に説明した。どの学年の児童にも理解できるように教育目標の文言を擬人化し、具体的な学校生活に当てはめて理解を促した。

・PTA総会での公表

本校では、毎年度4月にPTA会員を集めてPTA総会を行う。その議事の一つとして、改訂初年度は教育目標の説明を行った。改訂の経緯や理由、保護者アンケートの集計結果、前年度PTA役員会・学校評議員の了承を得たこと、及び教育目標に込められた願いと今後の教育活動・内容の改善点を具体的に説明した。

・地域への公表

本校校区は、学校が様々な地域の関係諸団体（例えば、青少年育成市民会議、地区福祉協議会など）の構成メンバーとなっており、年度当初には定例の会合が位置付けられている。その場で、学校の教育目標を改訂したこと、地域の教育力が教育目標具現に重要であることなどを説明し、児童への指導や学校の教育への理解と協力を依頼した。また、改訂された教育目標を掲載した学校だよりを校区の広報として閲覧してもらった。

・学校のホームページでの公表

本校では、平成28年度に学校ホームページをリニューアルし閲覧者も多く、関心が高い。そこで、教育目標や

目標に込められた願いなどをまとめた資料を作成し、HPに公表することで広く市民へ説明を行った。

以上、学校の教育目標の改訂に当たって、学校、保護者、地域住民の考えや願いを広く集約し生かすとともに、目指す学校像や児童に身に付けさせたい資質・能力を、家庭や地域とも共有し共通理解を図ることで、3者の連携・協働を進める確かな足場を築くことができた。

（２）学校の教育活動の改善

「要領」（2017）はその前文において、「社会に開かれた教育課程」の実現とは「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしなが、社会との連携及び協働によりその実現を図っていく」こととしている。ここでいう「社会」は、教育によって次世代が切り拓かれるという「将来の社会」の面と、地域に開かれ連携・協働する「地域社会」の面がある。こうした理念を念頭に、市町村立の学校では、県や市町村教育委員会の教育ビジョンを十分踏まえつつ、学校の教育目標に向かって、教育活動の改善、教育内容の質の向上、資源の効果的な活用（総則解説2017）の点から教育課程を編成する必要がある。教育目標の改訂が「単なるお題目」にならないためにも、そして「社会に開かれた教育課程」という理念を具現していくためにも改訂した教育目標の目指す教育に向けた教育課程を編成することが重要である。本校では、平成29年度教育課程を編成するにあたっては、学校の教育目標を柱に、中教審答申の示す理念「社会に開かれた教育課程」への具体的対応、そして教育目標を意識した教育活動の改善、及び適切な「カリキュラム・マネジメント」による教育活動の質の改善を進めることにした。

本稿では、特に、地域連携による教育活動の改善と教職員の指導改善に関する施策の具体を紹介する。

① 地域連携による教育活動の改善

本校では、教育課程編成の基本方針となる平成 29 年度学校経営方針の柱を「新しい教育目標・目指す子ども像の具現に踏み出す元年」とし、教育指導の重点は「自己肯定感の高まりを実感できる子を指す」として教育目標改訂初年度をスタートした。

特に、教育目標や経営方針の具現のために、教育活動を保護者や地域に開き、つながることで本校の教育活動を「見える化」し、地域社会との連携・協働を進める改善を進めた。その柱が『学校へ行こう』プロジェクトである。

教育に地域の人的資源を活用することは、地域社会との連携を進める上で有意義である。また、学校の教育目標を踏まえた教育内容や指導についての理解を保護者や地域住民が子どもの姿を通して深めることは「答申」（2016）にある「学びの地図」としての教育課程や「要領」の目指す理念や内容を理解してもらうことにもつながる。学校が地域の教育資源を活用するためには、まず保護者や地域住民を学校へ積極的に呼び込み、児童生徒の実態や教職員の指導について目で見て肌で感じてもらう機会を学校が積極的に創り出すことであると考え、『学校へ行こう』をキーワードにした施策に取り組んだ。

施策 1 「『学校へ行こう』プロジェクト 1, 2」

(ア) 『学習支援ボランティア』

本校では、「『学校へ行こう』プロジェクト」の一環として、保護者や地域住民が参加する『学習支援ボランティア』活動を始めた。各教科の指導内容や学年に応じて、保護者や地域住民を「学習支援ボランティア」として募集し、各担任の指導のアシスタントとして児童の学習を支援してもらった。地域住民等による学習支援は目新しいことではないが、学校の教育目標や「要領」が改訂される時期に行うことで、その意図や意味が保護者や地域に一層浸透されることになることを願ったものである。具体的な教科・領域としては、家庭科・体育科・総合的な学習の時間・クラブ活動・特別支援学級の学習活動である。

(イ) 『オープンキャンパス C小』

「地域社会に開かれた学校」を目に見える形で実感し、教育目標や目指す児童像の具現状況を確認してもらう有効

な方法は、多くの保護者や地域住民に学校を参観してもらうことである。本校は年間 3 回の授業参観と行事の際の学校開放が恒例であった。一方、保護者からは、「子どもの日常の姿が見たい。」「教科授業以外の活動も見てみたい。」などの声を聞くこともあった。そこで、11 月中の 1 週間で『オープンキャンパス C小』という名称で学校開放した。実施要領の概要は以下のとおりである。

- ・期間中は、授業中・休み時間等を問わず来校を可とする。
- ・保護者自身の子どもが所属するクラス及び、他の学年・学級も参観を可とする。
- ・参観後は、感想等を学校側へ届けることが望ましい。

図 2 は、『学習支援ボランティア』に関する保護者・地域向けの案内である。

施策 2 「『学校へ行こう』プロジェクト 3」

『真心ポスト』の設置と『まごころミニレター』

目標改訂時の保護者アンケートへの協力的な姿は、学校への期待の表れである。また、学校経営方針に示す児童の「自己肯定感」を高めることは児童の実態を踏まえた教育課題でもある。それは、学校の教育目標・目指す子ども像とも深く結びついている。そこで、子どもたちに自己肯定感の高まりを実感させるための施策として、保護者や地域住民に、子どもたちの日常の姿に現れるよさやがんばりを直接学校・子どもに届ける仕組みを構築した。『真心ポスト』とは、保護者や地域住民から「子どもたちの地域などで見つけたよさやうれしかった内容を、『まごころミニレター』として記入いただき、学校に設置したポストに投函してもらう活動である。そして、この活動の趣旨から、施策には児童も参画させるよう意図した。この取組に関する保護者や地域への説明・依頼の文には子どもたち自らがその願いを綴り、投函された内容は児童会の係が昼の校内放送等で紹介した。学校経営方針が示す、自己肯定感を高めるといふ教育課題を教職員の手による解決に限定せず、保護者や地域住民からの直接のメッセージを通して子どもたち自身が実感し、自己を創造していく支援の 1 つとすることを目指した。

「学校へ行こう」プロジェクト

第1弾

平成29年4月14日

小学校

子どもたちの学習を支援していただけませんか!?

『学習支援ボランティア』へ人材バンク登録をお願いします。

日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。本校は本年度より、学校の教育目標や目指す子ども像を改訂し、新しく創立46年目のスタートをしました。

学校では、今までも保護者や地域の皆様方のご協力いただき、行事や学習の充実を図ってきましたが、今後こうした方針を一層進め、より教育活動を充実させていきたいと考えております。そこで、子どもたちのために力を発揮したい、自分が身に付けた力を子どもたちのために使ってみたいと思っていられる方のご協力を募り、子どもたちの学習や活用の支援をお願いしたいと考えました。昨年度末にも配布しましたが、1年生も入学されましたので再度ご案内と募集をお願いしますことにしました。既にご登録いただいている方の提出は不要です。

支援内容は、下記のとおりです。お力添えをいただける方は、別紙『学習支援ボランティア人材バンク』に登録ください。

1 募集する教科・内容・時期・回数

番号	該当教科・学年	内容	時期	回数
1	家庭科 5年生	裁縫実習補助	6月	3回程度
2	クラブ活動 (活動)	クラブ活動補助 (ポルトガル語、タガログ語、スペイン語の学習活動)	6～11月 木曜日6時間目 15:00～16:00	月2回
3	情報学習 パソコン操作	パソコン操作の補助 (ワード、パワーポイントなどの扱い方)	学年ごとに異なります。	
4	夏休み水泳教室	水泳指導補助	7月21～24日	2回程度
5	体育(水泳指導)	学級の水泳指導での補助 (着替え等も含む)	6月～7月	10回程度
6	総合的な学習	高齢者福祉、障がい者福祉についての学習で講師をお願いできる方、講師の方や訪問施設などを紹介していただける方		

2 登録(保護者の方、地域の方共通) ※ 地域の方は電話でご連絡を

図2 学習支援ボランティア募集の案内文書

まごころミニレター

さんへ	より 匿名でも結構です。
内容(「いつ」「どこで」「こんな姿が」といった内容をお願いします。)	
<div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div>	

～お便り ありがとうございます。～



図3 「まごころミニレター」と「真心ポスト」

② 教職員の指導改善

「社会に開かれた教育課程」という理念への対応、教育目標を意識した教職員の教育活動の改善には、指導改善の営みが不可欠である。従前より学校という組織については、「相互不干渉で、授業や学級運営は担任任せの職場風土」(妹尾2017)が指摘されている。このような風土は、教育目標の具現や教育課程の編成・実施の阻害要因となる。そこで、本校では、教職員の指導改善については、アンケートに寄せられた保護者や地域の願いを全教職員が共有し、到達目標を明確にした実践を着実に進めること、目指す子ども像の具現のために、教育内容や方法を適宜・適切に改善することを目指した。具体的な改善施策を述べる。

【施策1】到達目標と「指導のポイント」

小学校では、教科指導をはじめ、生活指導・行事など集団活動の指導の中心は学級担任である。学校が組織体として機能するためには、学級担任が学校の教育目標や経営方針を理解し、年間・月ごとの適切な指導計画に沿った指導

学校の教育目標の設定と「社会に開かれた教育課程」

や学級経営を行うことが重要である。また、学校は、「個々人が自立（個業）的に活動」し、学校の教育目標も「組織目標としては曖昧で目標達成のための技術が一律に決まらない」（妹尾 2017）という指摘もある。よって、全教職員が共通の指導指針に向かって教育活動を進めるため、学校の教育目標及び目指す子ども像具現のための指標を月ごとに示すことにした。具体的には、表4のように、学校の教育活動を集団づくりの「キーワード」と、発達段階や指導のステップを踏まえた「指導のポイント」という視点から各月ごとに整理した「C小月別教育指導のポイント」を作成した。年度当初に学校の教育目標を確認するとともに、この指標を全教職員に提示し、学級経営はもちろん、校内の組織的な指導や職員会議における提案も、これを踏まえるよう指導した。これにより、組織が共有された到達目標に向かって動き出すことになった。これは、教育課程を編成する上での明確な方針となった。

【施策2】目指す子ども像の具現と指導改善

教育課程の編成において実践した施策のうち、指導改善と結びつけた校内研究について述べる。

本校では、「規範意識が醸成された落ち着いた集団の中で、そして子どもたちが誰でも意見が言え、出した意見は尊重されるという温かい人間関係の中でこそ、分かる・楽しい授業は実現できる。」という理念のもと、校内研究における授業改善の視点を「温かい人間関係の中で進められる授業」「一人ひとりが分かったという納得感や手応えを感じる授業」「仲間と交流し合い、練り合いの中でよりよい考えや学び方を味わう授業」とし、具体的な授業改善の柱を次のように設定した。それらが、常に目指す子ども像を意識した実践となるよう関連づけを明確にした。

<実践の柱と目指す子ども像との関連>

【目指す子ども像】自ら考え よりよく行動できる子

→【実践の柱】見通しをもって学ぶ授業

【目指す子ども像】芯のある子

→【実践の柱】明確な課題と自分の考えづくりが大切にされる授業

【目指す子ども像】思いやり つながり合える子

→【実践の柱】学び合いで高まる学習

日々目指す子ども像を意識した授業実践を重ねることが目標の具現及び児童の変容につながるとともに、保護者・地域に対する説明責任を具体的に果たすことになっている。

4 考察とまとめ

(1) 学校の教育目標の改訂とその評価

次に示すのは、岐阜地区教育長会機関紙「あすを創造するぎふの教育 第51号」に掲載された岐阜教育事務所長の言葉である。

■ 起点となる各学校の教育目標

(前半略)

次は、岐阜地区B小学校の昨年度と本年度の目標です
平成28年度

めあてに向かって 力いっぱい やり抜く子

平成29年度

しなやかに 真心をもって あすを拓く

(中略) 保護者・地域の方々とともに、「目指す子ども姿」を具体化され、具現に向けての仕組みやビジョンが全職員で作成・共有されています。例えば、教育目標で目指す子どもの姿を月別に「キーワード」と「指導のポイント」で明らかにし、全校で実践成果を段階的に共有できるように取り組んでみえます。中略 各学校で学習指導要領の改訂に伴って教育課程の見直しや指導改善に取り組んでいただいています。そのゴールはやはり「よりよい社会や人生を切り拓く資質・能力の育成」ではないでしょうか。そして、この資質・能力について教育課程全体を通じてどのように育むかは、各学校の教育目標を起点に具現化されるものと思います。(以下略)

ここで紹介されているB小学校は、本実践で述べたC小学校の学校の教育目標の改訂とそれに伴う教育課程の改善に係る内容である。ここでは、学校の教育目標の改訂を目的とすることなく、それを「起点」に今後の子どもたちのあるべき姿、それを具現するための指導内容や方法の改善を全教職員で検討することが重要であると指摘しており、本実践の、学校の教育目標の改訂とそれに伴う教育課程の編成の営みが適切な方向性を持っていたことの証左ともいえよう。

平成29年度 C小月別教育指導のポイント

◇【指導のポイント】は、学校の教育目標具現のために、学級・学年を超えて全校が共通の指導観をもって子どもの教育活動を進めるための指針。このポイントに基づいて、生徒指導、各指導部会、学年がそれぞれ子どもや学年の実態に応じた具体的な指導を行い、その成果は全校で共有するもの。

- ・どの教育活動（学級経営、授業、係活動等）でも同じ構えで指導できる。＜指導の一貫性＞
- ・月の見通しがもちやすく、児童への指導に校内で齟齬が少なくなる。＜見通しと共通指導＞
- ・指導部会、学年会に関係性が生まれ、集団と個の質的な向上が図られる。＜組織的、計画的＞

月	『キーワード』と指導のポイント	行事
個をつかみ、所属への安心感もたせる	4 『知る』 ◎先生と児童、児童相互のよい出会いは、互いの願いや目標、生活・学習のしかたを知ること ・授業や学校生活などの内容やルール等教えるべきは徹する。 ・丁寧、具体的、個別に指導し、确实、共感的に見届ける。	◇入学式・始業式 ◇授業参観
	5 『めざす』 ◎学級・全校の意欲的で組織的な動きをめざす ・学級目標・児童会スローガンなどを設定する。 ・係や当番活動、班等での組織的な活動へ歩み出す。 ・生活、学習での『〇組ルール』を明らかにして生活する。	◇5年宿泊研修 ◇プール開き ◇学校開放デー
	6 『高める』 ◎学習・生活等の現状を改善し、個人や集団を高める ★見届ける、言い続ける、こだわり続ける ・授業や係活動を通して集団を高め、学級目標に向かう。 ・仲間と楽しく安心できる生活のための約束を作る。 ・個に応じたよさを認め「心」と「規範意識」を育てる。	◇修学旅行 ◇4年宿泊研修
	7 『やりきる1』 ◎学級で共にやりきった喜び、個人でやりきるものを創り上げた自信をもって夏休みへ ・学級のよさや課題を明らかにしてみんなで目標をもち、組織的に取り組み、やりきる。 ・1学期の個人めあてを意識して生活し、やりきる。 『挑戦する』 ◎自分に挑戦する＝個の成長を	◇水泳教室 ◇サマースクール ◇終業式
8		

表4 「月別教育指導のポイント」

(2) 保護者や地域との連携と教育活動の評価

学校の教育目標の改訂を踏まえて、その具現のための方策として行った「『学校へ行こう』プロジェクト」について、保護者や地域との連携の点で、以下のような成果がみられた。

ア まごころミニレター

【まごころミニレター投函数】 のべ 年間 113 枚
寄せられたレターには、次のような内容があった。

- ・通学班長が、横断歩道を渡りきると必ず振り返って頭を下げて挨拶してくれることに対して、清々しい気持ちになること。下級生に対して優しく声をかけ、後ろを歩く下級生を気にしながら、歩いてくれることに感謝の思いを伝える内容
- ・地区の資源回収において、回収の車が着くと指示されなくとも集まり、自主的に持っていったり、進んで取り組んだりする姿を価値付ける内容

イ 学校評価におけるプロジェクトの評価

保護者に次の設問で評価を訊ねたところ次のような結果となった。

【設問】

「『学校へ行こう』プロジェクト」を始めたことは、本校の教育や子どもたちにとってよい成果をもたらしていると思いますか。

【回答】

【大変よい】 49.1% 【概ねよい】 50.2% (計 99.3%)

寄せられた意見内容の概略は次のようである。

- ・授業以外の子どもたちの様子を見ることができる。子どもたちにとっても、多くの人に見守ってもらっているという意識になり、生活・学習ともによい方向に向かっているとの内容
- ・オープンキャンパスは、保護者と学校の距離が縮まる。こうした機会を通して、学校と一緒に子どもを見守り、育てていきたいとの内容
- ・まごころミニレターが、学校や児童の様子を伝えやすく、触れ合うきっかけとなるという内容。また、こうした取り組みを進める教員への労いや激励の言葉も寄せられた。

このように、「『学校へ行こう』プロジェクト」について、保護者等からの積極的な協力や参加とともに、保護者や地域を巻き込んだ新しい教育活動への期待が感じられた。これは、保護者等からの意見収集を踏まえた学校の教育目標の改訂、目指す児童像の具現のための保護者・地域の意識が影響していると考えられる。

また、学校評議員や市教育委員会の学校指導訪問などにおいて、以下の評価がされている。

- ・学校の教育目標も変わり、「『学校へ行こう』プロジェクト」等、地域の方々を学校に取り込んで教育が行われて、学校を応援する方が多くてよいという内容
- ・学校の教育目標が、これからのC小や学校教育に必ずやる目標となっているという内容
- ・社会も教育も進化中、教える側が進化し努力することで、学ぶ側の子どもたちは選択肢を得ることができるという教員の姿勢は望ましいという内容

(3) まとめ

現在学校教育には多くの課題や責務がある。その一つ一つに学校の教職員が組織的に対応することは当然であり、「開かれた学校」のもと家庭や地域の連携は求められ続けている。しかし、今回の理念である「社会に開かれた教育課程」は、学校と社会の連携・協力にとどまらず、学校における課題を双方が共有し、「社会総がかり」で地域課題の解決を図っていくことであり、(貝ノ瀬 2018) 学校の教育目標や育てたい子ども像をもとに、教育活動の内容についても理解し合いながら連携・協働を進めることである。

本実践を通して、C小学校では、家庭・地域の中で、学校の教育活動、学校の教育目標や教育課程への関心が高まった。この姿はまさに「答申」が示す「これからの時代を生きていくために必要な力とは何かを学校と社会が共有し、共に育てていく」教育の在り方を示す事例であり、学校・家庭・地域が、「本校ではどのような子どもを育てるのか、本校の子どもにとってどのような教育が必要か」という共通の視点で、教育目標及び教育課程が見直され、意義深い実践となった。

【引用文献】

- 1) 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領」
- 2) 岡本徹・佐々木司(2012) 「新しい時代の教育制度と経営」ミネルバ書房 P. 47
- 3) 二宮豊志 (2015) 「経営の概念について」東海大学紀要政治経済学部 第47号 P. 203
- 4) 文部科学省 (2016) 『中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」 初等教育資料2月号臨時増刊』 P. 40, 50
- 5) 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領 解説 総則編」 P. 44
- 6) 三山緑(2012) 「新しい時代の教育制度と経営」ミネルバ P. 47
- 7) 佐藤正志(2006) 「現代学校経営シリーズ 36 学校力の向上—その経営戦略と実践—」東京書籍 P. 71、72
- 8) 佐藤光咲く・浦野弘(2015) 「学校教育目標の設定とその教育課程へ具現化の事例—秋田における事例を通して—」秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要第37号
- 9) 岐阜県小中学校校長会教育問題審議会(2008) 「これからの学校教育と校長の責務 (その8)」 P. 32
- 10) 文部科学省(2017) 「初等教育資料 NO. 961 総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力とカリキュラム・マネジメント」 東洋館出版 P. 56
- 11) 天笠茂(2019) 「学校教育目標と校長のリーダーシップ」ぎょうせい教育ライブラリー
<https://shop.gyosei.jp/library/archives/cat02/0000001042>
- 12) 文部科学省(2019) 「初等教育資料 NO. 978 地域との連携・協働を通じたカリキュラム・マネジメント—社会に開かれた教育課程の実現に向けて—」、東洋館出版 P. 2
- 13) 妹尾昌俊 (2017) 「変わる学校 変わらない学校」、学事出版 P. 72、49
- 14) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 (2016) 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm
- 15) 岐阜地区教育長会 (2017) 「あすを創造するぎふの教育 第51号—願う子どもの姿を見据えて—」、P. 1
- 16) 貝ノ瀬滋(2018) 『「社会に開かれた教育課程」』を実現する学校づくり —具体化のためのテーマ別実践事例15、学事出版 P. 9

**The Construction of the
Educational Objectives and
"Curriculum Open to Society"
～ Case Studies in Municipal
Elementary School in Gifu Prefecture～**

WAKIDA Tadashi

